

双極症とともに生活することを支援する情報セットの開発：

—当事者・家族・医療従事者との修正デルファイ法による研究—

論文タイトル

Development of an Essential Information Set for Supporting Life With Bipolar Disorder:
A Modified Delphi Study With Patients, Families and Healthcare Professionals

(双極症とともに生活することを支援する情報セットの開発：当事者・家族・医療従事者との修正デルファイ法による研究)

著者

Rieko Nagata, Takashi Amagasa, Takashi Okura, Kayoko Ichikawa, Yoshitaka Nishikawa, Mayumi Toyama,
Hiroshi Okada, Yoshimitsu Takahashi, Yu Sakagami, Eiji Suzuki, Norio Ozaki, Takeo Nakayama

(京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 他)

掲載誌

Health Expectations, 2025; 28:e70470

DOI: 10.1111/hex.70470

研究期間

2022年05月09日 ~ 2024年12月31日

1.概要

双極症は、うつ状態と躁状態が繰り返し現れ、社会生活に大きな影響を与える疾患です。本研究では、当事者・家族・医療従事者が協働し、双極症とともにより良く生活するために必要な「情報セット」を合意形成プロセス（修正版デルファイ法）を用いて開発しました。

2.研究の背景と目的

双極症の治療では、薬物療法とともに心理教育（疾患についての正しい知識や自己管理方法を当事者・家族・医療従事者が共有し、再発予防やより良い生活を目指すための教育的支援）が有効とされていますが、日常診療で十分な心理教育プログラムが提供されていない現状があります。当事者・家族が病気や治療について十分な情報を得ることは、治療への積極的な参加や自己管理、再発予防に重要です。しかし、現場で提供される情報は医療従事者目線が中心であり、当事者・家族の視点を反映した情報の優先順位付けは十分に議論されていませんでした。

3.研究方法

本研究では、国内外の学会・行政・製薬会社等が公開する信頼性の高い情報をもとに126項目の候補情報を抽出し、当事者・家族・医療従事者からなる専門家パネル（計11名）による2回の個別評価とパネル会議を実施しました。評価は「最重要」「重要」「必要」「不要」の4段階で行い、合意形成を経て23項目の「情報セット」を策定しました。

[「情報セット」へ ▶](#)

各項目は、当事者・家族・医療従事者が共通して理解し、治療や日常生活の中で活用できる内容となっています。特に、当事者・家族の経験に基づく「日常生活での工夫」や「家族のサポート」など、従来の医療者中心の情報では十分に扱われていなかった視点が反映されています。

4.今後の展望

本情報セットは、双極症の維持期治療開始時に当事者・家族・医療従事者が共有すべき「最小限必要な情報」として、心理教育の基盤となることが期待されます。今後は、臨床現場での実用性や効果の検証が求められます。